

超潔癖社会と免疫力



東京医科歯科大学医学部教授

藤田 紘一郎さん

「ダイオキシン・環境ホルモン対策会議」は3月22日、東京都豊島区の勤労福祉会館大会議室で『化学汚染から子どもを守ろう』と題するブックレット出版記念シンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは、国民会議副代表で小児科医の毛利子来さんが「子どもの治癒力と化学物質」、そして東京医科歯科大学医学部教授藤田紘一郎さんが「超潔癖社会と免疫力」について話され、最後に会場とパネリストとの意見交換を行いました。ここでは、藤田紘一郎さんのお話を紹介します。

(構成：山口 香・編集委員)

私は普段から便利になりすぎたり、能率を良くすると、かえって不便になるという話をしています。

私たちの身体は、一万年前から細胞学的にも免疫学的にも全く変わりません。一万年前というと、裸でジャングルや野原を走っていたんですね。ところが私たちは、綺麗なほうがいいということで、綺麗にしてきました。便利なほうがいいということで、便利にしてきました。そうしますと、私たちの身体の中で非常に変なことが起こっているのです。一万年前から私たちの身体は変わっていないけれど、人間だけが楽をしよう、得をしよう、そういう社会を作ってきたのです。たとえば、いつでも食べられるコンビニ食は便利で良いように見えます。ところが、私たちの身体は好きな時、好きなだけ食べて良いような身体ではありません。

便利だからといって、落とし穴があります。今日は「キレイ社会の落とし穴」について話します。

綺麗にすることは良いことだけど、行き過ぎているのです。

綺麗なものは

私の専門は細菌学、ウイルス学、寄生虫学など様々なばい菌に関することを研究していました。ちょうど30年前、日本がバブル期で、多くの商社がインドネシアなど海外に進出していた時です。当時インドネシアのカリマンタン島で木材を切ると、数十億円と儲けることのできた時代です。ですから多くの商社がインドネシアの山奥に進出しました。ところが、マラリアやアメーバなど怖い熱帯病にかかってくるのです。そこで私はインドネシアのカリマンタン島に行きました。素晴らしいところでした。というのは、うんちが川に流れているんですね。うんちをしていると、その横で洗濯をしているんですね。洗濯は良いんですけど、歯磨きもやっているんですよ。川を調べたら、うんちから回虫の卵が見える。若い子も、綺麗な子も、お風呂の水をその川で済ませていました。

うんちの流れる川で子ども達が泳いでいるのを見て、「君たちはなんて野蛮だ、こんなところで泳いでいたら病気になるよ」と思いました。ところが肌を見たらとても気持ちの良い黒光り、みんなとっても綺麗ですよ。そして、子ども達に、「君たちは野蛮人だよ。うんちが流れてるところでよく泳ぐよ」と言いました。そしたら子ども達が「ドクター、うんち、おしっこなぜ汚いのですか?」と言われました。当時私は医者になったばかりで、うんちは排泄物だから汚いに決まっているじゃないかと言ったわけです。

ところが今考えると、うんち、おしっこは本当に汚いでしょうか？うんちの成分の半分はお腹の中にいた腸内細菌ですよ。生きた腸内細菌も死んだ腸内細菌も。前の日、消化しなかった繊維、水分、ミネラル、そんな汚いものではないですよ。特に出たばかりのおしっこは無菌ですよ。だからばい菌がいるのが汚い、いないのが綺麗といいますと、一番世の中で綺麗なものは出たばかりのおしっこですよ。一番汚いのは口の中です。ばい菌の数と種類が一番多いのは口の中ですよ。だから日本では平気でキスをして、おしっこをなめられない、本当におかしいですよ。それを言うと私がおかしいと言われますけれど（笑）。非常に日本人はうんち、おしっこに関して、強い嫌悪感を持っている。行き過ぎてているんですね。

日本では、うんちが流れている川で顔を洗い、歯磨きをするなんてとんでもないと言われていたんですけど、ご存じのようにインドのガンジス川では、うんち、おしっこが流れ、人や動物の死体も流れているんですよ。そこで口を濯いだり、身を浄めたりする人達が非常に多い。つまり世界を見ると日本は特殊ですよ。

アレルギーの原因

インドネシアの子ども達は、アトピー、喘息、花粉症になりません。なぜ、うんちの流れている川で遊んでいる子ども達が、アトピー、喘息、花粉症にならないのか。これが私の研究テーマになりました。

調査を通じて、アレルギーを抑えていたのは、お腹の中にいる回虫だけでなく、身の回りのばい菌も抑えているということがわかりました。私たちには10種類の菌がいて、皮膚を守っている。手にばい菌が出ますと、手はこんなにばっちいですよと教えてきたんですけど、これは間違いです。手はこんなに多くのばい菌さんで守られていると言わなくちゃいけないのに、ばい菌を排除してしまっている。

大腸菌を悪者だといって、抗生物質、殺菌剤を使います。そうしますと、大腸菌も生き物ですから、なんとか生きようとして、奇形の大腸菌が今まで200種類ぐらい出てきました。その中の157番目がO-157です。だからO-157はキレイ社会にいるのです。インドネシアではいません。アメリカ、カナダ、日本、イギリス等、そういったキレイ社会です。

なんでも除いてきますと、ますます敏感になってきます。地球が生まれて45億年、生物が生まれて37億年経っています。抗生物質もなかったのに私たちは生きてきた。というのは、いろんなばい菌さんを棲ませて、その力で自然の抵抗力が出来たのです。だから、自然治癒力をつけることが必要なのです。つまり、綺麗な部屋でコンピュータゲームをするのではなく、泥んこ遊びをすることです。

私は沖縄で子ども達を集めて、アレルギーになっている人はどんな子か、子どもの遊び場との関連を調べました。そうしましたら、本当に泥んこ遊びした子はアレルギーにならない。部屋でコンピュータゲームをする子の方が非常になりやすい。アトピーになる遺伝的な体質はもちろんあります。しかし、その遺伝的なものを越してははっきり出ています。アレルギー体質の子は綺麗な部屋でコンピュータゲームをしている子が非常に多くなっています。そして、泥んこ遊びしている子には出てない。

行き過ぎた結果

日本でスギ花粉症が第一例が見つかったのは、1963年です。40年前に日光の患者さんでした。しかし、日光の杉花粉は17世紀から飛んでいるのです。スギ花粉は17世紀から飛んでいたけれど、花粉症の人はいなかった。日本人はアレルギーにならない体質だった。ところが、今や世界で一番アレルギー体質なんです。40年前、アレルギーにかかっていなかったのは、お腹の中で回虫を飼っていたからです。身の回りのばい菌を大事にしていたわけです。しかし、回虫は気持ちの悪いと追い出しました。回虫の感染率が1950年に62%、1960年には20%、1965年は5%でした。そのころから、花粉症、アトピー、喘息が出てきたんです。それは、私たちが持っている自然治癒力をわざわざお金を使って追い出したからです。私は綺麗にすることは非常に良いことですが、商品を「抗菌」と称し化学物質で綺麗にして、その余分なものを燃やしたためにダイオキシンが出てきた。洗剤の数もすごく多いですね。そういったものが環境ホルモンを生んで、癌を引き起こしたりしているわけです。綺麗にすることは良いことですが、行き過ぎて私たちは、私たち自身を非常にゆがめている気が致します。